

壺棺墓について

第5次調査(令和元年)で、16号方形周溝墓ほうけいしゅうこうぼの南東溝に重なる30号土坑から弥生時代後期の壺棺墓が出土しました。土器を棺とする“壺棺墓”は縄文時代晩期から続く埋葬方法の一つで、口縁部が打ち欠かれた大型の壺が、別の壺の底部で蓋ふたをされて横向きに置かれていました。大型の壺は、高さ約70cm、胴部最大径は約55cmにおよびます。

周溝墓との関係は不明ですが、周溝墓が造られた後に壺棺が埋葬されたと考えられます。